

国際ロータリー第2590地区



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度 国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

HP : <http://www.kawasaki-chuo-rc.com/>
E-mail : info@kawasaki-chuo-rc.com

先達を敬い、未来を見据えて行動をしましょう！

例会：毎週月曜日 12:30

例会場：川崎日航ホテル TEL: 044-244-5941

事務所：210-0004 川崎市川崎区宮本町7-1 三陽会館ビル5階

TEL: 044-233-3005 FAX: 044-233-8460



幹事 谷中 努
会長 牧島 聡
副会長 安東仁志

第1691回 令和6年3月11日 VOL.39 No.26

川崎中央ロータリークラブ WEEKLY

- 司会……熊野SAA
- 点鐘……牧島会長
- ロータリーソング 瀧上会員
「我等の生業」
- 本日のメニュー 和食

ゲスト

関根親睦活動副委員長
卓話者 アライナさんの友人 ライアンさん
木村会員
川崎区役所 外山富之様

出席報告

林(信)出席委員長

	会員数	出席 該当者	出席者	欠席者	ホーム クラブ	メイク	前々回 修正
1691回	44	43	28	15	65.11		
1689回	44	43	32	11	74.41	1	76.74

会長報告

牧島 聡 会長

1. 本日は、2011年に起きた東日本大震災から、ちょうど13年目になります。改めて、日ごろから防災に意を払うとともに、亡くなった被災者の方々のご冥福をお祈り申し上げます。
2. 地区から、前年度地区大会の収支決算報告書が修正され、地区資金本会計・特別会計の収支報告書もまとめ、監査を終えることができたので、22-23年度地区資金会計・特別会計の承認手続きをするので、各ロータリークラブ会長に、3月27日15:30から横浜プラムホテルに集まっていただきたいという指示が来ましたが、私は既に出張がはっていました。

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～

で、会計の森本さんに出席をお願いしました。森本さんよろしくお願致します。

幹事報告

谷中幹事

◎ 例会変更のお知らせ

新川崎RC

3月13日(水) 休会

3月20日(水) 休会 祝日のため

3月27日(水) 移動例会 お花見例会

◎ 週報を送ってくださったRC

ありません。

◎ 本日の配布物

会報 3/4・ ロータリーの友

「ロータリーの友」の概要

本多プログラム委員長



委員会報告

木村会員

東海道 400 年プロジェクトのお願い

スマイルレポート

安東副会長

牧島会員……ハイ、アライナ。アイム ルッキングフォワード トゥ ユア スピーチ。

ハロー、ライアン。エンジョイ アワ クラブ ミーティング。

谷中会員……週末、山は雪が降ったので、昨日はスノーボードに行ってきました。今シーズンで一番いいコンディションでした。

アライナさん卓話たのしみです。

川島会員……①アライナ様、卓話楽しみにしております。
②花粉症で悩んでいます。ゴルフ場では気が遠くなる様です。

松本会員……アライナさん卓話勉強させて頂きます。

森本会員……とうとう後期高齢者です。

森川会員……皆さん、こんにちは。フロンターレ、またホームで負けてしまいましたが戦力は充実しています。今後勝ち続けるでしょう。

木村会員……①本日の卓話アライナさんよろしくお願申し上げます。

②本日は東海道 400 年プロジェクトのお願いに区役所の外山係長と一緒に伺いました。よろしくお願申し上げます。

佐野会員……昨日から急に坐骨神経痛で大変です。

14日のゴルフコンペ頑張ります。

渡辺会員……アライナさん、平和フェローの卓話よろしくお願致します。

渡部会員……山口さん、谷中さん、林さん先日スキーではいろいろとお世話になりました。

上原会員……皆さまこんにちは♡①花粉が飛びすぎててつらいです。

②「ロータリーの友」概要説明、本多さんよろしくお願いたします。

③アライナさん本日の卓話楽しみに致しております。

伊藤(弘)会員…①アライナさん今日の卓話を楽しみにしてました。よろしくお願致します。

②1ヶ月前に転倒したときの挫創がようやく治ってきました。年をとると治るのもくっとおそくなるのをマザマザと感じました。コケないように気をつけないと！

山口会員……冬に醜いボディーになってしまったのでジムに通い始めました。筋肉痛が心地よいです。

本多会員……アライナさん、ライアンさんようこそ！平和フェローの初卓話、楽しみにしています。石田さん通訳頑張って下さい！

今日は3月11日東日本大震災から13年経ちました。朝ためてご冥福をお祈りしつつ震災を考える日にしている思います。

萩原会員……東日本大震災、きょうで13年経て未だに3万人の人が避難生活を送っている事実がびっくりしています。被災者の方々に改めましてご冥福をお祈りいたします。

森崎会員……アライナさん卓話たのしみです。頑張って下さい。私の友人が急死しました。皆さん身体には十分気を付けて下さい。

和田会員……今日は3.11の13日目ですね。

アライナさん卓話楽しみにしております。

関根会員……アライナさん今日はお話し楽しみにしております。来週は「アナと雪の女王」の移動例会です。後ほど連絡致しますが皆様気を付けてお越し下さい。

林(信)会員…皆さんこんにちは。アライナさん卓話楽しみです。

原 会員……東日本大震災から今日で13年が経ちましたね。最近、千葉県で地震が続いているので心配です。本日アライナさんの卓話楽しみにしております。

どうそよろしくお願致します。
安東会員……先程松本から帰ってきました。穂高でゴルフをする予定でしたが雪でクローズになってしまいました。アライナさんようこそいらっしやいました。本日の卓話よろしくお願致します。

1691回	21件	22,000円	累計	396件	607,500円
-------	-----	---------	----	------	----------

卓話

ロータリー平和センターフェロー
アライナ ブロダーソンさん

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～



1 Good Afternoon, everyone! Thank you so much for having me, my name is Alaina Broderson, I am a Rotary Peace Fellow from the United States finishing my Master's in Social and Cultural Analysis at the International Christian University. A little bit of background on me, I am 30 years old, I was raised in a little town in the state of Kentucky, USA. I come from a small but very active family, my mom and dad, sister, and grandparents (photo here) were all very involved in community service both internationally and in our local communities. We worked in animal shelters, food pantries, programs that supported folks living on the street, and I had a vested interest in advocating for LGBTQ rights.

2 My entire family is also very creative, we all sing and draw, my dad and sister are both graphic designers, and we were all involved in theatre. I started performing when I was 5 years old, and continued singing, acting, and dancing for most of my life. I went to a special high school focused on performing arts, and then when I went to college, I graduated with a degree in Theatre and Organizational Leadership, combining my two passions. I have since taken a break from performing, and started working for Non Governmental Organizations doing everything from helping people find jobs to domestic violence prevention work. I say all of this to give you an understanding that I am not a textbook academic. At my core, I am an artist. I love to create. But I have spent many years trying to figure out how to blend my love of art and creativity with my love of community service.

3 In 2021, I was living in a small town in Maine in the United States when I discovered the Rotary Peace Fellowship. I wasn't really thinking about applying for other Grad School opportunities, but I decided to apply for this program because I appreciated that it blended my passion for local service with a larger, global perspective, as well as being bolstered by a multi-disciplinary liberal arts approach offered through ICU. I had, and still have incredible support throughout this adventure, especially from Ryan, who I am lucky to have here with me today. When I arrived to Japan, I was overwhelmed by the gracious greeting I received from my incredible sponsor, Ishida-san. I was immediately introduced to a wonderful community. Our Peace Fellow Class arrived when Japan was still pretty closed off because of COVID-19, and

1 皆さん、こんにちは。お招きいただき、誠にありがとうございます。私はアーリー・プロダクションと申します。私は、アメリカから参りましたロータリー平和フェローで、ICU で文化社会学の修士課程を履修中です。少し私のバックグラウンドを申し上げます。現在私は30歳で、ケンタッキー州の小さな町で生まれました。私の家族はともにも活発で、これは私の両親、妹、それに祖父母ですが(写真)、皆、国際奉仕活動にも地域奉仕活動にも深く取り組んでおりました。具体的には、動物保護施設、食料支援所や路上生活者支援プログラム、特にLGBTQの権利推進活動に関心を抱くようになりました。esbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer/Questioning (まだどれか分からない人)の略)

2 また家族全員がともにも創造的で、歌を歌ったり、絵を描いたり、父と妹は二人ともグラフィック・デザイナーで、全員が演劇に携わってきました。私は5歳から演劇を始め、以来これまでの人生の大半で歌ったり、演劇をしたり、ダンスをしております。高校では舞台芸術専門学校に通い、大学では演劇学と組織リーダーシップという情熱を注ぐ二つの分野を組み合わせ、卒業いたしました。それからは一旦演劇から離れ、NGOにて就職支援の仕事から、家庭内暴力止支援の仕事まで、何でもやってみて参りました。私が特にお伝えしたいことは、私は頭でかちて机上の理論に尽す人間ではない、ということを知りたいということです。自分の芯の部分では、私はアーティスト・芸術家であり、何かを創造することが大好きです。しかし、芸術や創造への思いと、地域奉仕への思いをどのように融合すればよいのかを長い間問い求めて参りました。

3 2021年、私はメイン州の小さな町に住んでいましたが、そこでロータリーの平和フェローシップについて知りました。最初はまた他の大学院に志願するつもりはありませんでしたが、地域奉仕活動への思いを、より大きな地球的な視点で育めますし、またICUでの学際的なリベラル・アーツへのアプローチはプラスになると考えたのでこのプログラムに応募いたしました。過去から現在に至るまで、この冒険に対して多大な支援を受けていますが、特に幸いにも本日臨席して頂いているライアン・デイさんにもサポートして頂いております。日本に着いた時には、私の素晴らしいカウンセラーである石田さんからのとても温かい歓迎に驚き、嬉しく思いました。そして、すぐに素晴らしい場に私を紹介してくれました。ピース・フェローの一行が日本に来た時は、まだコロナ禍で非常に隔離的状態に於かれており、その日本にやってきました。

日本で新生活を始めるにあたって際には誰もが直面する問題にも直面しましたが、ロータリーの方々や、ICUの卒業生、そして地域の皆さんの助けも借り日本の生活に極めて快適になじむ事が出来ております。

we faced the usual challenges while starting our lives here. But because of Rotarian, ICU alumnae, and community support, we were able to settle quite nicely into our lives in Japan.

4 My first year here, I took many interesting classes at ICU, I visited Rotary Clubs, attended events in my community, and started creating lasting friendship with the other Rotary Scholars, who are all from around the world. We had cooking classes, attended a Sumo match, and got involved in some community activism. You may even remember me dancing on stage to the Fox Dance at the 2022 Kawasaki Chuo Rotary Club's Christmas party!

Even though starting a life in a new country presented many challenges, I found so much joy in many of the things I did, mostly because I was welcomed with such open arms. The summer between our First and Second year at ICU, we were given an fully funded opportunity to obtain experience in our chosen field, in hopes that it would bolster our educational, professional, and personal experience. My thesis topic is about LGBTQ+ representation in the news, so I decided to go to London, where I spent the summer volunteering at the London LGBTQ+ Community Center and conducting a qualitative research project that I am using as part of my Master's Thesis.

In London I had the opportunity to take classes, engage with art projects, attend workshops and community events, and most importantly, hear stories from other LGBTQ+ folks who shared their stories about existing in an increasingly hate-filled world.

5 LGBTQ+ people are some of the most marginalized people in society, and experience significant levels of social and structural violence. For instance, in Japan, where gay marriage is still not nationally legal, young LGBTQ+ people have very high rates of mental health issues, with a recent survey showing over 40% of respondents contemplated suicide in the past year, and 91% of respondents saying they could not talk to their guardians about their LGBTQ+ identity for fear having negative remarks being made. In the UK, hate crimes against LGBTQ+ people have climbed 118% over the last five years. While I was in only London for two months, there were four stabbings that happened specifically targeting LGBTQ+ people. Prejudice towards transgender people especially has increased, as the culture war that stems from the West continues to divide using hateful rhetoric and misinformation.

I mention these statistics to demonstrate how difficult life can be as an LGBTQ+ person, to help you understand that so many suffer in silence, and why it is so important to have accurate, respectful, and responsible representation of LGBTQ+ people in news media.

6 In my research, I found LGBTQ+ people were incredibly dissatisfied with

4 日本での始めの一年は、ICUで沢山の面白い授業を取ったり、ロータリークラブにお邪魔したり、地元での行事に参加しました。

また、世界から日本に来ている多くのロータリー修士たちと一緒に渡るであろう友情関係を築いたりしていました。料理教室にも通い、相撲観戦に行ったり、地域活動に関わったりしていました。

川崎中央ロータリークラブでは、2022年のクリスマス会でフォックスダンスを踊ったのを覚えていらっしゃる方もいるかも知れません!

初めての国で生活を始めるということは、沢山の問題がありますが、私は大変暖かく歓迎をいただいたので、それらにもとても喜びを感じる事が出来ました。

ICU1年目と2年目の間の夏休みに、私たちフェローは学術的、職業的、そして個人的経験値を高めることを目的として、それぞれの研究分野において経験を積むべく、財団の資金的援助を受けることが出来ました。私の研究テーマは、「ニュースにおける、LGBTQ+についての表現」であるため、ロンドンに行き、夏一杯ロンドン・LGBTQ+コミュニティセンターでのボランティアに参加し、修士論文の一部として定性的研究に取り組みました。

そこでは、たくさんの授業を取り、芸術プロジェクトに取り組み、またワークショップや地域活動に参加しました。中でも重要であったのは、益々嫌悪、偏見に満ちあふれるこの世界に生きることに、LGBTQ+の人たちに沢山の話を聞いたことでした。

5 彼らはある意味、社会におけるもっとも阻害された人々であり、社会的・構造的暴力を味わっていると言えます。

例えば、日本ではゲイの結婚は法的に認められておらず、若いLGBTQ+の方たちはメンタルヘルスの問題の割合が高く、最近の調査では回答者の40%以上が過去に自殺を考えたことがあり、91%の回答者が、否定的なことを言われることを恐れ、自身のLGBTQ+のアイデンティティについて保護者には話が出来ないと答えております。

英国では、LGBTQ+の人たちに対するヘイト・クライム(偏見差別による犯罪)が5年前に比べ118%の増加に達しています。2か月間ロンドンにずっといましたが、LGBTQ+の人達が刺される事件が4件もありました。

西欧社会に拡大する文化論争が一部の集団に対する憎しみに満ちたレトリック(修辞法)や誤った情報に益々派生しているため、特にトランスジェンダーの人々に対する偏見が増大しております。

私はこれらの統計に言及することで、LGBTQ+として生きていくことがどれだけ困難であるかを示し、いかに多くのLGBTQ+の方々の方が沈黙の中で苦しんでいるのか、なぜニュースメディアにおいてLGBTQ+の人たちについて、正確に敬意をもって、責任ある表現をすることが極めて重要であるかを理解して頂きたいのです。

6 私の調査では、LGBTQ+の人たちは英国の主要ニュースメディアのLGBTQ+についての報道の仕方に驚くほど不満を抱いており、それらのニュースがどれほどネガティブであるかに落胆し、家族と話すのをやめた理由として、その増加をあげる人もいます。LGBTQ+の人々はジャーナリズムからのより良い報道と表現・ニュースがトランスジェンダーの話しをどのようにカバーするかに対し多くの結果責任や、その自分の経験がニュースメディアに正確かつ敬意を持って反映されることに對し確認を求めています。ニュースに溢れるこの世界では、LGBTQ+

how major news media represented transgender stories in the UK, feeling discouraged by how negative the news is, with some even citing the increase in negative coverage of Transgender stories as the reason they stopped speaking with their family. LGBTQ+ people want better coverage and representation from journalism, more accountability for how news covers Transgender stories, and to see their own experiences accurately and respectfully reflected in news media. In a world where we are saturated with the news, how LGBTQ+ experiences are reported on is incredibly important.

7 After hearing these experiences from the LGBTQ+ community in London, I decided I wanted to do something that gave people the opportunity to tell their own stories in a safe and expressive environment. Counter-storytelling is a method used in Critical Race Theory to provide people with marginalized identities opportunities to reclaim narratives often told from non-marginalized perspective. This is rooted in the common experience of Black Americans having their stories told from a white or non-Black perspective. When stories are told about a group but not by a member of the group, nuance and insight is lost, because the author does not fully grasp what it means to be apart of the group they are speaking about. For example, I wouldn't write a story on what it means to be Japanese, as I will never understand that experience!

8 I applied this academic tool to an LGBTQ+ audience, informed by the research I had reviewed during my time in London. I decided to create and facilitate a workshop where LGBTQ+ people were given the opportunity to write their own story about their own "good news". This took the form of Zine creation, which is an accessible and easy visual art tool. Participants discussed the ups and downs of representation in news and the frustration that they often face being bombarded by negativity, and were asked to craft and write their own version of the news.

9 I asked people to focus on small, seemingly insignificant pieces of "news" in their life, because I believe we should be celebrating the small things. Participants wrote about their new favorite coffee shop, moving in with their partner, their favorite color, and much more. It was such a positive and uplifting experience that demonstrated that, when given the freedom and encouragement, finding good news was actually much easier to find than expected. With these

の経験がどのように報道されるかは極めて重要です。

7 これら様々な体験を聞き、こういった人々が、安全で自由に表現できる環境で自身について話をする機会を持ってもらうために何かしかな事をしたいと思いました。Counter-storytelling/カウンター・ストーリー・テリング(マイノリティに対する問題抽出手法)は、阻害されたマイノリティの人々が、通常疎外されていない人々の視点から語られることが多い話を自分達の元に取り戻す機会を与えるCritical Race Theory(批判的人種理論/人種差別は法に於いて組み込まれていると考える理論で差別と闘い変えていこうとする考え)において採用される手法です。

これは黒人のアメリカ人がよく経験する、自分達の話が白人から、もしくは黒人以外の視点から語られるという共通の体験に根ざしています。例えばある特定の集団について、その集団に属さない人間が語る場合、微妙な機微や洞察に欠けております。何故ならその語り手は自分が語っている集団が何たるものを十分に理解していないからです。例えば、日本人とは、ということについては、そういう話を私は書きません。何故なら私は日本人としての経験を理解できないからです。

8 ロンドンの LGBTQ+コミュニティからこれらの経験を聞いた後、私はこの学術的手法を LGBTQ+の聴衆に対し応用しました。まずワークショップを立ち上げ、LGBTQ+の人たちに自身の「良いニュース」について文章を書いてもらうことにしました。

同人誌(ミニコミ誌)のフォームを採用しており、これは取っつきやすく、簡単なビジュアル・アートの手法です。参加者はニュースの表現上の起伏と、嬉しかったこと逆に嫌だったことを自分なりの表現方法でニュースを作り直してもらいました。

9 私は参加者に対して、自分たちの生活における、小さな全く重要でないように思えるニュースに焦点を当てて欲しいとお願いしました。何故ならば、そういった些細な事を讀めるべきだと私は思うからです。参加者は、新しく好きなコーヒーショップについてや、パートナーとの引っ越しとか、好きな色についてなど、色々なことを書いてくれました。これは自由と勇気を与えられている時には、良いニュースを見つけることは実際予想よりもとても簡単であることを示す、とても前向きで自己肯定感が上がる経験でした。こういった体験や回答を基に、英国メディアにおけるトランスジェンダーに関する報道の影響と、ビジュアル・アートにおけるcounter-storytelling(カウンター・ストーリー・テリング)という手法が、LGBTQ+のコミュニティにおける新活力を構築する手段として大変価値があることについての修士論文を執筆中です。

10 日本においても、幸いなことに LGBTQ+コミュニティにおける活動や研究をされている方々と知り合うことが出来ました。小さなコミュニティではあるかもしれませ

experiences and answers,

I am now in the process of writing my Master's Thesis on the impact of coverage of Transgender Stories in the news media in the UK, and how counter-storytelling through visual art is an invaluable tool for building resilience in LGBTQ+ communities.

10 I have been lucky to get to know some of the activists and academics in the LGBTQ+ community here in Japan, and though it's a seemingly small community, they are vocal and passionate about advocating for their rights and fighting for an end to social stigma.

I have participated in and facilitated additional workshops in my time and Japan, not only engaging with the LGBTQ+ community, but also the arts community. The passion and creativity I have seen has made me a better person, and has fueled my drive to continue this work beyond my thesis. I hope to use my thesis to create a workshop curriculum that could be used to empower and encourage creativity within LGBTQ+ communities everywhere.

I believe this will not only help those communities heal, but also provide non-LGBTQ+ people with insight into the LGBTQ+ experience, ultimately working to bridge the divide that is still being driven as I speak.

11 We are all deserving of respect and accurate representation, and being able to use my creative passion to help encourage healthier, kinder communities in this way is an incredible honor.

I appreciate that Rotary's commitment to peace building is widely applicable to different communities and can be implemented in many creative ways. I would not be able to do this without the support of Rotarians like yourself, and I am eternally grateful. Thank you so much for your time.

んが、彼らは自分たちの権利を主張し、社会の矛盾撲滅のために声を大にし、情熱的に活動されています。私は日本に来てからにさらに多くのワークショップに参加し、また運営していますが、それは LGBTQ+のコミュニティだけでなく、芸術のワークショップにも参加しています。

そこで出会った方々の情熱や創造性は、自分をさらに向上させ、単なる論文の題材という次元を超えてこの取り組みを継続する道を後押ししてくれます。世界中至る所の LGBTQ+コミュニティにおいて、彼らを勇気づけ創造性を育むためのワークショップのカリキュラムを作るのに、私の論文が活かされることを望んでいます。

このカリキュラムは、LGBTQ+のような集団の人たちにとっての癒しとなるばかりでなく、LGBTQ+以外の人たちが LGBTQ+の感じていること、体験していることについて深い理解を持つことが出来ると信じていますし、究極的には、先ほど言いましたような、現在も加速的に進む社会の分断において懸け橋としての役割を担うとも確信しています。

11 我々は誰も敬意をもって扱われるべきだし、正しく表現されるべきであります。もし私の創造的な情熱がこのような形でより健全な、より思いやりのある集団を応援することに活かされるのなら、この上なく光栄なことだと思います。

ロータリーの平和を実現するというコミットメントが、他の集団・組織にも幅広く当てはまることができ、色々な創造的な方法でさらに強固なものになると考えております。それは皆さんロータリアンの方々のサポートなしには決して実現できない事だと思っておりますし、心より感謝をいたしております。

ご清聴ありがとうございました。



今週の担当者

森崎会員

会報委員 瀧上亜里佐 阿野順一
島田喜彦 森崎敏広
和田 裕 坪井麻衣子
事務局 伊藤 清恵

川崎中央ロータリークラブ Weekly
Vol. 39 No. 26
編集・作成 川崎中央 RC 事務局
発行日 令和6年3月11日

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう! 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～